

研究テーマ名	都市の文化的創造的機能を支える公共交通のあり方についての提言
背景と目的	<p>未来の都市のあり方を考えるにあたり、都市はサステナブルかつクリエイティブであるべきと考えられる。ニューヨーク、ロンドン、ウィーンといった例を出すまでもなく、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。自主研究 2004 プロジェクトでは、さまざまな文化的創造的な活動から派生する交通需要の受け皿、かつそれらを誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の役割を明らかにすることを目的として、海外事例調査、国内および海外でのウェブアンケート調査と国内でのケーススタディを通して調査研究活動の成果を得た。今回は、その成果を社会に訴求するために、書籍出版および国際シンポジウムを企画実施することを目的とする。</p>
期待される成果	<p>出版を考えている書籍については、3年間の研究活動の成果の紹介と、毎回の研究会での充実した議論をもとにした、研究会メンバー有志による書下ろしの章を加えた構成を構想している。研究活動成果である、都市の歴史的文脈、文化的体験の種類の多様性に留意し、公共交通につながる空間の課題、交通結節点や車両を含む公共交通のインフラの課題、公共交通を支えるシステムの課題について、連続性やスケール感、移動の選択肢や自由度、情報提供や運賃制度も含めた MaaS の動向も踏まえた提言を書籍に含める。シンポジウムは、都市や交通にかかわる専門家、関心のある市民や学生等書籍購入想定層を対象に、書籍とほぼ同じ内容とし、オンラインで欧州から都市交通の専門家を招聘して実施する。出版およびシンポジウムを通じて、国際交通安全学会の国際性や超学際性を踏まえた研究成果を、海外専門家からの知見も含めて関心のある人たちに広く共有いただくことで、コロナ後の日本の都市の改革、安全で快適なモビリティ社会の実現に向けての活動推進が期待される。</p>